

根本正顕彰会会報第5号

平成10年8月31日

第2回理事会報告

8月18日(火)午後7～9時那珂町中央公民館で11名が出席して第2回理事会が開かれました。今回の会合の目的は10月11日(日)に開催される第2回定期総会に備えて、第1年度の活動を総括し、第2年度の活動目標を立てるとともに総会に向けての準備に入ることです。

会長から次のようなメモが配布され、これに沿って協議が行われました。

根本正顕彰会理事会(1998.8.18)用メモ

柏村一郎

……第2回定期総会に向けて

1. 第1年度の活動とその反省(『今年も水郡線をSLが走ります』の配布、臨時総会と講演会(3月8日)、文書『根本正顕彰会』の作成、研究例会と会報(すでに4回…6回を予定)、3つの委員会の発足、関係機関(展示コーナーや保管庫の設置依頼も含め各般の協力依頼)と先進地高萩市役所等訪問、石碑『根本正先生生誕の地』の建立と除幕式(10月11日(日)9時現地)、若干の文献・資料・写真等の収集など)
2. 第2年度の課題(中期的目標を模索しながら。高萩市の活動は教えられることが多い…第4号会報をご覧ください) 現在は担い手不足なので
 - (1) 各委員会活動の具体化・実質化……まずは各委員会の構成メンバーの充実
 - *行事広報等委員会(行事面では史跡めぐり…例えば11月の研究例会は東京方面・来年5月は水郡線沿線など、町の文化祭への参加?、そのほかに何ができるか、広報面では町民、学校の先生、児童、生徒、町外の機関や人びとに何をするか。マンガ入り読み物の編集、印刷、配布(調査研究委員会と共同で…予算は?))
 - *調査研究委員会(調査面では何をどのような日程で調査するか、研究面では①地元から見た“根本正像”をつくり上げていく(一人ひとりの根本正像を集大成した地元からの根本正像、顕彰会としての根本正像も可能)
 - ②根本正の今日的意義の追求
 - ③根本正の精神を今日具体的に生かしていくには何をすべきか など
 - *資料・史跡保存管理委員会(何を集めるか。何をコピーするか。保存・展示について町の社会教育課や歴史民俗資料館との話を詰める。寄託、寄贈契約についても話を詰める。文書は館にある。墓地などを町の文化財(史跡)に指定してもらうことについて折衝する。レリーフ建立に向けての諸準備(調査など))
 - (2) 会員を増やす。
 - (3) 多くの分野の人たちによって支えられる『根本正ネットワーク』の充実
 - (4) 「これなら自分もできる」というところまで仕事がこなれていない……これをどうするか。上記の②③まで行けば仕事は広がる。(5) 顕彰事業の先進地から学ぶ。

- (6) 根本正について話をする場を各方面に設けてもらう。…町当局には依頼しました。
3. 協議事項 那珂町国際交流協会への加入について(会費 年1万円)
4. 第2回定期総会に向けての諸準備(10月11日(日) 2時から那珂町中央公民館)
- (1) 役員は任期3年なので原則はそのまま。顧問に小宅町長。顧問に佐藤次男氏の案
- (2) 第1年度事業報告、決算報告、第2年度事業予定と予算……担当者は?
- (3) 講演会の代わりに報告会(高畑さん、根本正男さん、柏村「根本正の今日的意義」)
- (4) 案内状(欠席者の委任状)、当日の配布文書は何と何か(式次第、会則、(3)の4つ、会長挨拶、「根本正の今日的意義」、会員?と役員名簿)
- (5) ほかに何かよいアイデアは?

1. の本年度の活動については会員と町当局等の協力のおかげで運営が軌道に乗り、会員数も増えました。3つの委員会が発足し、当面の活動方針や活動内容の討議が行われ、全体の討議と確認を得て、いよいよ活動開始というところまで来ました。

2. の第2年度の課題はこれまで会員の皆さんから寄せられたご意見に私見を交えてまとめたものです。各委員会の具体的な活動内容については8月23日に行われる第5回研究例会でさらに討議が深められると思われます。

*行事広報等委員会のところで「史跡めぐり」とあるのは、研究例会が勉強会になっていて近寄り難いという声があるので、これに応えようとするものです。

*調査研究委員会のところで②根本正の今日的意義 ③根本正の精神を今日具体的に生かしていくには何をすべきか、を載せたのは第一に顕彰という仕事はここまでやらなければ本当ではないという思いがあること、第二に根本正の精神を生かすための実践活動をしたという人が少なからずいるのではないかと思われるので、そのような人びとに早急に応える必要があること。「これなら自分でもできる」という仕事が増えてくると思われること、(この会議のあとで後藤副会長から送られてきたファックスに「各会員が自分の得意な分野で顕彰会の中で力を発揮できるようにするにはどうしたらよいか」とあります)

第三に調査研究の仕事は5～10年行えば仕事が減ってくる可能性が強い。顕彰会が半永久的に続くためには、将来次々に起こって来るいろいろな問題に対して根本正の精神で臨むとすればどうすべきか検討しながら対応するという行き方が必要になってくると思われるからです。

高萩市の例にあるように、小・中学生が自由研究で根本正を取り上げ、学校や町の文化祭で発表したら大したものだと思う。小・中学生はもとより父母たちや町の人に与える影響は大きい。子供はもちろん親にとっても自由研究は頭の痛い問題である。顕彰会がこれに全面的に協力できたらすばらしい。「根本正賞」はこのような子供に上げるとよい。

いままで「顕彰会会員の思いは一つ」という声が多かったが、現実には「思いは多様」である。このような現実に対応できるよう顕彰会は多角的な運営が必要だ」という意見が出ました。

また、「根本正という良い素材があるのだから、言葉は不適切かもしれないが商品化して

売り出すというマーケティング的ないしは経営的手法が大切である」という提言がありました。永年マーケティングや経営の仕事をしてこられた方から見れば顕彰会の運営はモタモタしているように見えるのだろうし、そのように見られても仕方がないと思います。

(ただ、根本正という商品はある商品ではないのです。商品化には時間がかかります。売り手(会員)が買い手(一般の人たち)に商品の中味(人物、思想、業績)や効用(今日的意義)や使用方法(根本正の精神を生かす実践活動)をきちんと説明できなければ売れないと思います。そのような意味でいまは商品化の最中とご理解いただきたいと思います……時間がなくてその席で申しあげられませんでしたので、ここで述べさせていただきます)

②の「根本正の今日的意義」の追求ですが、これは①(根本正像を作るための調査研究)と③(実践)とを媒介する大切な仕事です。

海後さんが研究例会その他の場で何度か「町の社会教育審議会で、成人式でコーヒーカップやアルバムを贈るよりも加藤先生の『根本正伝』の一部をコピーして贈った方がはるかに意義がある」と提案し、委員全員に『根本正伝』を差し上げたが、「そうですねー」というだけで黙殺されてしまった」と残念がられた。

私(柏村)はこの頃次のように考えるようになりました。……社会教育審議会の委員といえはこの町では最高の有識者に属する人たちが根本正についても知っていると考えられる。

しかし、「立派な政治家であったことはその通りであっても、今の若い人たちに理解してもらえるかどうかまったく自信がない。ほとんど読まれず紙屑にされてしまうのではないか」という心配があったのではないかと想像される。これは「根本正の今日的意義」がこれまで一般に追求されてこなかったことに原因があり、社会教育審議会の委員の責任ではない。顕彰会は早急にこれを行うべきであり、決して準備十分とはいえないが第2回定期総会で「根本正の今日的意義」について、今考えていることを述べさせていただきたいと思っています。(ここの部分は時間の都合で理事会ではなく研究例会で申しあげました)

審議事項

1. 小宅町長、佐藤次男氏に顧問を依頼することについて……了承。

(小宅町長に顧問兼会員になっていただき、町が後援団体になることを了承してくださいましたので、顕彰会には大きなプラスになると思います。

佐藤さんにも顧問兼会員になっていただきました。佐藤さんは元茨城県歴史館資料部長で、その前は長い間(茨城)県史編さん室長を勤められ、茨城県の歴史の生き字引です。

那珂町史編さん委員会の顧問もされました。研究例会や講演会などで貴重なお話をいただけたと思います。32年前根本正について書いて、これはすごい人だと思ったそうです)

2. 那珂町国際交流協会への加入について

根本正は国際的に活躍した人で、その足跡を追い、調査研究を進めるうえで同協会の支援が必要になってくると思います。また根本正は“ブラジル移民の父”ともいわれていますが、日系ブラジル人がかなり那珂町で働いています。同協会ではこのような人たちとの

交流を図っていますが、顕彰会でも協力したいと思います。同協会の趣旨に沿って海外に視察等に出かける場合には一団体最高50万円（一人5万円）の補助があるそうです。

3. 石碑『根本正先生生誕の地』の除幕式について

会報第4号でご報告しましたように、海後さんのお骨折りで東木倉の根本喜代治様の屋敷内に根本正顕彰会の名でこのような石碑が建立されますので、10月11日（日）（第2回定期総会の日）午前9時から顕彰会の主催で、現地で除幕式を行いたいと思います。

……このことも理事会の了解が得られました。詳細は9月に総会の案内状とともにお知らせし、会員の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

第5回研究例会の報告

8月23日（日）午後2時～5時、那珂町中央公民館で開催されました。出席者17名。

安斉副会長の司会で進められ、会長あいさつ（おもに1ヶ月間の経過報告）のあと、8月18日の理事会の報告と質疑応答が行われました。

1. 根本正廣さんから「建立者名や建立日は石碑の表側がよいのではないか」というお話があり、会長が根本喜代治さん（正治さん）、表さん、海後さんと連絡して表側に彫ることになりました。

2. 根本正の足跡をたどってアメリカを訪問することについては、会員の中に強い要望があり、第2年目の行事予定にいてほしいということでした。訪問は平成11年4～5月、1週間程度。個人負担は30万円ぐらいか？

事前の情報収集が必要である。訪問先をどこにするか。根本正の手紙の送り先は？ インターネットの利用も。根本一族や当会員の関係者で過去に、また現在渡来している人から情報を集める。（具体的な名前が出ました。追って聞いてみたいと思います）

アメリカ人で根本正に影響を与えたアメリカの精神を伝えてくれる人を探し、呼んで話を聞く機会を作ってほしいという要望がありました。

3. 「会員が増えて現在90名になっているが、今後会費不納や何かで会員が減少するおそれはないか。等身大の写真を飾るとか、多くの人にPRする機会をつくって会員を増やす努力をしてほしい」という話が出ました。……高萩市の長久保赤水顕彰会では、はじめの頃義理で入った人が辞めて150人が130人になった。その後は死亡などで減った分を新規加入者で補って以後数年横ばいであるとのこと。赤水に対する市民の理解は進んでいて顕彰会を支える層の厚さを感じます。（「中心にいる人たちが頑張っていれば何とかなる。自転車をこぐのを止めたらずぐダメになる」という励ましもあります）

50分ほど3つの委員会に分かれて討議した後、各委員会から報告がありました。

*行事広報等委員会

1. 根本正をPRするチラシをつくり、11月中に那珂町の全世帯（12,000戸）に行政ルート（区→班→家庭）を通して配布してもらう。

2. 婦人会、食生活改善普及会、ネットワーク那珂、なかなか塾のお父さんサミット等に

働きかける。

3. 法人に会員になってもらう。

4. 会員にアンケート調査し、要望、意見を聞くとともに3つの委員会への加入者を募る。

*調査研究委員会

1. 文献目録の作成と資料の収集を平行して行う。

2. 当面、旧町史編さん室にある資料、県の歴史館にある資料、国会図書館にある資料、茨城新聞の記事を調査する。

*資料・史跡保存管理委員会→8月30日安斉、柏村が歴史民俗資料館を訪問し依頼した。

1. 歴史民俗資料館に根本正コーナーを設ける。→了解し、寄託・寄贈申込書をいただく。

2. 顕彰会として歴史民俗資料館友の会に加入する。→友の会はない。

3. 顕彰会の事務局を歴史民俗資料館に移してはどうか。→態勢がないのでできない。

4. 清水洞の上整備事業で根本正を紹介する掲示をお願いする。

時間の関係で報告だけで終わりました。今後、委員会内部であるいは全体で討議する必要がある項目がいくつもあるように思います。

◎遺品・資料等を寄託・寄贈されたい方は安斉（または柏村）にご連絡ください。

◎ 会の運営の基本を決める理事会に顕彰会の運営の中核になっている委員会の委員長が入っていないのはおかしい、という指摘がありました。全くその通りですので、9月6日{午後7～9時中央公民館}の理事会は拡大理事会にして委員長さんに出席してもらい、総会で委員長さんを理事に選出してもらうことにしようということになりました。

長久保赤水顕彰会長宅訪問記

根本正顕彰会は長久保赤水顕彰会をお手本にして設立されました。なかなか塾で設立準備をしていた頃、いろいろ教えていただいたり、資料を頂戴したりして大いに助かりました。根本正顕彰会の運営が軌道に乗りましたので、お礼を述べ、当顕彰会の今日までの歩みを報告し、長久保赤水顕彰会運営のノウハウを教えてくださいという3つの目的がありました。

8月21日（金）午後7時高萩市に大崎宥一様（会長、画家）宅を柏村、安斉、高畑、海野徹の4名が訪問しました。副会長で『地政学者 長久保赤水伝』という大冊の著者であり、『儒佛弁』、『東奥紀行』、『長崎行役日記』（いずれも赤水関係）、『ソメイヨシノやワサビの名づけ親 松村任三』の著者でもあられる長久保源蔵（片雲）さんも同席してお相手をしてくださいました。

長久保赤水顕彰会は平成4年11月6日に設立され、個人108名、法人5団体でスタートしたが、平成7年1月1日には125名になっています。（顕彰会報『飛耳長目』より）はじめ赤水を核にして地元国立地図博物館をつくろうと考えた。当時日本学士院でもそのような博物館をつくる計画があり、犬山市や千葉市が名乗り出ていたが、両市ともや疲れ気味であった。千葉市の隣の佐倉市には国立歴史民俗博物館ができた。

そこで高萩市が北茨城市と提携して、病院、研究施設などとともに地図博物館を誘致し

ようということになった。ところが学士院では膨大な土地と建物、100名を超える学芸員という構想だったので県は乗ってこない。バブル後の不況で状況は悪かった。採算が取れるかといわれ断念した。(平成6年8月に400名を超える署名を添えて市に『国立地図学博物館建設促進準備委員会設立』と『長久保赤水記念館』の設立を陳情し採択された)

そこで顕彰会を中心に平成7年頃から、旧松岡農協の大谷石の倉庫が空になっているのでこれを赤水記念館に転用できないかということになり、市に働きかけている。

隣に公民館があり、その職員にお願いできれば学芸員を常駐させなくて済む。

建物はタダにしてもらい、3,000万円で市がJAから土地を買い取ってもらわなければならないが、経費節減の折、予算化できるかどうかははっきりしない。

建設が具体化すれば改装にもお金がかかるので、寄付集めをすることになると思う。

赤水についてのPRする場合、紙芝居は意外に効果がある。「源蔵さんの描いた紙芝居は、馬といってもキュウリに4本の割り箸を挿したようなものだから、これが受ける。私などは考えて考えて描くのだが、それよりも源蔵さんの強引な描きかたの方が訴える力がある」と大崎さんはいわれる。

自由研究で子供が描いた赤水にまつわる絵に対して、町の歴史好きのおじさんが「このチョンマゲは商人のスタイルで、武士のチョンマゲはこういう風に描くのだ」と教えた。

町のおじさんと子供の交流が生まれた。

「教科書や副読本に名前が載ればPR効果は極めて大きいのでそのように努めたらよい」という話がありました。これを聞いて、もし中学か高校の保健の教科書に未成年者の禁煙や禁酒に関して根本正について述べられていればPR効果はあると思った。

しかし、なぜ根本正が苦勞してこのよう法律を作ったかをきちんと教える必要がある。

平成6年6月5日(日)に顕彰会の理事の一人が講師となって、高萩市立松岡中学校の1年生を対象に郷土史講座を実施し、その中で赤水について2時間話をし、好評であった。

全校生徒と父母を対象にした『松岡歴史新聞』に赤水の特集記事を載せた。

(学校は文化の発信源として大切などころなので、顕彰会への小中学校の先生方の加入状況をたずねてみた)10人ほどで、校長は一人もいないと嘆いておられた。(根本正顕彰会はゼロ)

定期総会その他の機会に講演会を行っている。講師は会員。今日若松健一さん(歯科医でコーラスの指導者)がコーラスの発表会のため水戸へ行き、出席できなくなって残念である。実務面でも有能でそちらの方は任せているが、その話ができなくて、ということであった。会員の層の厚さ、質の高さ、有機的つながりの確かさなどうらやましい限りである。

現在創立以来7年目になるが、6~7年目というのは中だるみになりやすい。5年ぐらいで原稿が出尽くしてしまうからである。顕彰会の中心メンバーが北茨城市に東電が計画している400万KWの火力発電所に反対する運動に参加し、顕彰会の方が少しお留守になった感はある。石炭殻を海へ捨てれば海の生態系が破壊される。自販機を減らせば電力は節約でき、この大火発は要らなくなる。原発や火発を減らせば膨大な地元対策費が不要

になって、その分電力が安くなるはずだという話があった。すでに酒の自販機販売は未成年者飲酒禁止法に違反するという指摘が出ている。

大崎さんのお祖父さん(いつか仙台で有名な教育者と聞いた)は大の酒豪でかなりの財産を使い、高萩に来て小峰酒造の酒蔵を買ってこれを教会に改造し、そこで禁酒運動をしたということである。根本正の晩年に当たる頃なので、根本正と交流があったかもしれない。以下、顕彰会会報『飛耳長目』や定期総会の決算報告からまとめた。

現在(平10) 会費収入(予算) 33万円(個人93、法人5として)。

事務費と会議費でこの6年間平均9万円弱、事業費 平均11万円強(年により6万円前後の視察旅行補助や学校への地図の複製寄贈(34万円)、会員などへの出版物の贈与)、資料購入費(古地図、古書など、顕彰会単独か市の補助に不足分負担で)平均18万円弱。事業費や資料購入費はお金があれば多く支出し、なければ節減しているように見える。(各年度の決算報告書から)

1 泊研修旅行は

平成5年8月……”『東奥紀行』の足跡を尋ねる旅”(仙台、多賀城碑、塩釜、松島、金華山、石巻などで1泊2日2万円、28人……好評であった)

平成6年と7年に第2回”『東奥紀行』の足跡を尋ねる旅”(出羽3山を中心に)を計画したが、参加申込者不足で中止になった。

日帰り視察旅行は

平成5年2月…古河歴史博物館特別展『鷹見泉石と地図』を参観 泉石は古河藩の家老で洋学者、八百数十点の地図が展示され、赤水の地図もあった。参加者9人。

平成6年2月…土浦市立博物館で『地球儀の世界』展を見学し、『地球儀と日本人』と題した講演を聴く。伊奈町の間宮林蔵記念館も見学した。参加者8人。

平成8年6月…千葉県八千代市生涯学習課、佐倉市の国立博物館、佐原市の伊能忠敬記念館を訪問。市の生涯学習推進協議会と合同で、市の福祉バスを利用。

平成9年6月…つくば市の地図と測量の科学館と岩井市の県の自然博物館見学。他と共催 昔の陸前浜街道をバスでたどったり、江戸博物館や松岡城主中山家の墓へも行った。

次回の研究例会は9月20日(日) 2時から那珂町中央公民館2階で

テーマは1. 第2年度の課題(前回の各委員会報告内容の全体討議など)

2. 研修旅行の予習(東京の根本正ゆかりの施設、場所) 3. その他

編集後記

8月23日第5回研究例会の帰り道、根本正廣さんから「顕彰会も少しずつ展望が見えてきましたね」といわれた。ようやくここまで来ました。大変でも2年目が楽しみです。

9月には町役場の職員と那珂町の小中学校の先生とPTA役員の皆さん全員に『根本正顕彰会』という3枚綴りの印刷物を配布します。町長さんと教育長さんのご了解を得ています。11月には那珂町12,000戸に別のチラシを配布する話が出ています。IK